

# saveMLAK ニュースレター

## 第 63 号

### 年次報告会オンライン開催のおしらせ

saveMLAK 報告会 2020 を 6 月 28 日（日）にオンライン開催いたします。詳細なプログラムならびに参加案内などにつきましては、現在調整中ですので、改めてのご案内をお待ちください。まずは皆様のスケジュール帳に年次報告会予定を記入いただければ幸いです。

#### <saveMLAK 報告会 2020>

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20200628>

日時：2020 年 6 月 28 日（日）14:00～16:30

場所：オンライン \*Zoom 使用予定

プログラム（予定）：

第 1 部 第 111 回 saveMLAK Meetup

第 2 部 基調講演

図書館の動向調査の立ち上げと、ひろがり。

－「COVID-19：多くの図書館が閉館しています」

吉本龍司、常川真央

Zoom 交流会

### saveMLAK 会計

#### 2020 年 2 月～2020 年 4 月期（合算）会計報告

収入

受け取り利子 ￥3

寄付預り金 ￥1,002

2020 年 4 月末現在残高 ￥669,104

+現金 ￥1,002

【※野泰輔／saveMLAK ファンド係】

#### 2020 年 3 月～4 月の出来事と今後の予定

2 月 26 日

第 107 回 Meetup を開催

3 月 24 日

第 108 回 Meetup を開催

4 月 12 日

COVID-19 対応特別 saveMLAK Meetup を開催

4 月 23 日

第 109 回 Meetup を開催

5 月 21 日

第 110 回 Meetup を開催予定

6 月 28 日

年次報告会をオンライン開催予定

#### <COVID-19 に対する取り組み>

COVID-19 の流行をうけて全国各地の MLAK 機関が休館・閉館をしています。4/9 に発表されたカーリルがおこなった調査結果<sup>\*1</sup>を受けて、saveMLAK でも活動をおこそうと、4/12 に「COVID-19 特別対応 Meetup」が開催されました。この Meetup では主として次の活動展開について議論され、具体的な活動に繋がっています。

1. 各段階での開閉館情報の記録と共有
2. 各段階での提供サービスの記録と共有
3. 各種の対応策の相談・共有

saveMLAK の特設ページ<sup>\*2</sup>にて、これら活動を整理していますので、可能な範囲での参画や、知人の方々への紹介などお願いいたします。

\*1 COVID-19：多くの図書館が閉館しています（カーリルのブログ） <https://blog.calil.jp/2020/04/stay-at-home.html>

\*2 COVID-19 – saveMLAK 特設ページ

[https://savemlak.jp/wiki/COVID-19#cite\\_note-savemlak\\_jp\\_20200412-1](https://savemlak.jp/wiki/COVID-19#cite_note-savemlak_jp_20200412-1)

#### ベストプラクティスの共有

休館やサービスの縮小を余儀なくされている状況にあっても MLAK 機関はそれぞれに特徴的な活動を模索し、展開しています。saveMLAK では、そのような活動をはじめとするベストプラクティスを収集しています。取り組み事例の他にも、各館からのメッセージを集めたりもしています。お近くの館の取り組み、ウェブでみかけた取り組みなどを見かけましたら、saveMLAK のページへ書き込みください。

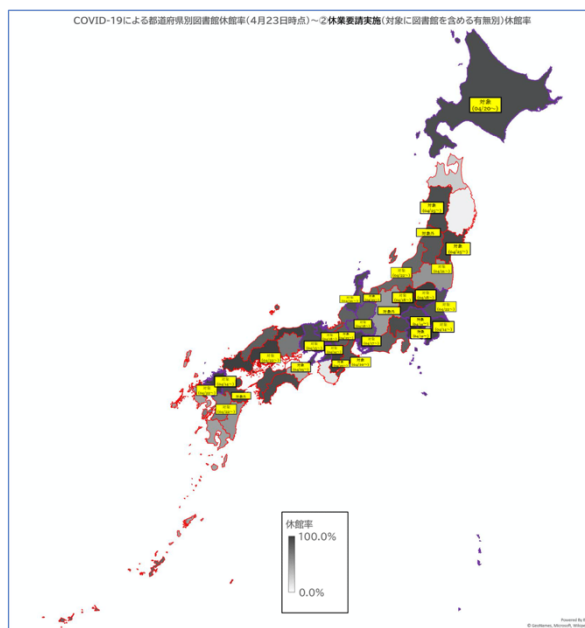


## 閉開館状況をみんなで可視化

図書館の閉開館状況を継続的に把握するために、saveMLAK メンバーほか有志が分担して COVID-19 の影響による図書館の動向調査を実施しています。4月8日にカーリルがおこなった調査を受け、その1週間後である4月15、16日に第2回目の調査が実施されました。そして、4月22、23日に第3回調査が実施されています。次回調査は5月初旬に実施予定であり、現在調査参加者を募っています。

第3回調査結果(4/23発表)によると、休館になることを発表している図書館は調査した1,626館中1,430館です。4/16時点での休館率は57%でしたが、4/23時点では88%となっています。

また、第3回調査では緊急事態措置による休業要請の対象に図書館が含まれているのかも調査しています。社会情勢の変化が大きい中、継続的な調査が必要であり、多くの調査協力も必要です。ご関心のある方は是非ご協力ください。なお、各調査結果の詳細は、saveMLAK のウェブサイトに掲載しています。



赤枠: 特措法に基づく政府緊急事態宣言指定地域(4月16日発出: 全国47都道府県)  
紫枠: うち、新型コロナウイルス感染症予防対策の基本的対応方針による特定警戒都道府県(13都道府県)  
黄色: 都道府県知事による休業要請発出及び開始(予定)白<図書館対象外の要請も含む>

COVID-19による都道府県別図書館休館率(4/23時点)

1,549館・39人・889館・57%・11point・96.9%・45.6%・34時間・1,549館・39人・889館・57%・11point・96.9%・45.6%・34時間・1,549館・39人・889館・57%・11point・96.9%・45.6%・34時間

# データのチカラ、 仲間のチカラ、 図書館の今とこれからの記録する

ぜひ、一緒に! for Lib

ライブラリアンが何かいまできること…  
<呼びかけ人>  
saveMLAK COVID-19libdataチーム  
このデータ一元化ワークショップ企画は、saveMLAKのプロジェクトとして、アカデミック・リソース・ガイドさんや、カーリルさんのご協力で、データ化作業やワークショップの運営などを進めていただいています。ぜひ、皆さんでノックってください。

あなたの地域の図書館の開閉館状況を全国で一つにデータ化する  
ネット上でのワークショップ第2弾を手伝っていただける方を募集

**4月22日(水)または23日(木)**のいずれかの日に調査協力していただける方

<参加メンバー募集>  
調査状況によって、一斉調査を継続する場合もあります。

- インターネットを使って作業内容や調査データのやりとりができる方
- 今、ライブラリアンとしてどんなことができるだろう?、何かできることはないだろうか?と探している人も。

<ワークショップ内容>  
普通にPCスキルのある人なら簡単です!  
全国どこからでも可能

- ①作業内容や調査データのやりとりはCode4Lib JAPANの公開Slackで行います。チャンネル『#covid19-libdata』で確認してください。(※Slackについては下記連絡方法の項で)
- ②自分の担当したい地域を宣言して調査に着手します。(※終了宣言や応援募集コールなども可能)
- ③担当エリアの図書館の開館・閉館状況を調査し、指定のスプレッドシートに入力対象館のウェブサイトや各公共団体のウェブサイトなどにあるものを確認し、凡例にそって入力。

<応募方法・連絡方法>  
都道府県内の一部エリアの担当でもOK。応募後、割り振ります。

- ①データ集約作業に必要ですので、Googleアカウントを持っていない方は取得してください。
- ②『Slack』のサイトまたはアプリにサインインして『Code4Lib JAPAN』の公開Slackに参加
- ③公開Slackのチャンネル『#covid19-libdata』に参加し、データ入力に参加したいと申し出てください。
- ④入力用のスプレッドシートへの入力権限を付与してもらってからスタートできます。

1point・96.9%・45.6%・34時間・1,549館・39人・889館・57%・11point・96.9%・45.6%・34時間

saveMLAK COVID-19libdata チームからの調査員募集



※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

## #StayHome, #KeepLibrarianship

誰もが等しく知りたいことに向き合える機会を提供し続けてきた公共図書館が、全国一斉に新興感染症という脅威に直面することになりました。なにをどうすれば正解なのかはわかりませんし、個人的にはただひとつの正解というのはいかなる時もないと考えます。それでも、どんな時であっても、ライブラリアンという専門職が社会に寄与できることは、必ずあります。それを各館の事情とも勘案して形にするためには、今回の課題に対する臨床や社会の動向を客観的に捉えることと共に、「いまこのわたしたち」を可視化することが大切です。自分の足元が見えていないのにやみくもに歩き出すこと、あるいは、何もせず目を閉じること。いずれも、漠然とした不安を増長させることにつながるのではないのでしょうか。

なんとなく Facebook を開いた私の目に飛び込んできた、カーリルの吉本龍司さんとふじたまさえさんの二人による一斉調査の結果。まさに「公共図書館のいまここを明らかにする取り組み」でした。投稿の末尾にあった「協力してくれる人いないかなあ」という吉本さんのひとことに参加表明のコメントが、いくつも。この投稿と岡本真さんの呼びかけから、二人の熱意は saveMLAK による『COVID-19 の影響による図書館の動向調査』という全国規模の有志の活動になりました。

作業への参加条件は「インターネットを使って各館の状況確認や入力作業、情報交換ができること」です。おおまかに決められた作業の流れや入力ルールに沿って、できることをできるだけというスタンスで進めています。データの統合や整理等の役割を担ってくださる人はいますが、リーダーはいません。ノルマもありません。登録時に本名や所属を明らかにすることを義務付けてもいないので、実はどんなひとが参加しているのかもよくわかっていません。

先に参加した人が新しく参加した人に作業のレクチャーをする。とりあえず疑問を投げってみると回答が届く、もしくは議論に発展する。素敵な取り組みをしている図書館を見つけては共有してほっこりする。「助けて」と声を出すと「まかせろ」というスタンプが返ってくる。各自の得意を活かして新しい提案をする。なにもかもゆるやかに進んでいく中、各自の主体性に根ざした「真の協働」で作業が成り立っています。ひよっとするとこのプロジェクトは、

いまこの図書館の姿を残しながらこれからのライブラリアンの姿を写しているのかもしれませんが。

このプロジェクトがいつまで続くのか、どのように活用されるのか、現時点では誰もわかりません。ただ、残さなかったものを次の時代に活用することはできません。いまここは、これまでと、これらにつながっています。今後も、作業や参加の声かけは続けていく予定です。ぜひ、より多くの方に作業に加わっていただきたいですし、諸事情があって作業ができない方もこの活動を多くの方に紹介いただくことで参加していただけたら、うれしいです。

まずは人として #StayHome。そして、どんなときでも #KeepLibrarianship。

【小嶋智美：Independent Librarian】

所属や身分にこだわらない司書として活動中  
現在の活動領域は、医学・医療情報サービス

## 編集後記

COVID-19 の感染拡大防止の為、多くの MLAK 機関にも影響がでており、私たちの生活の中にあつた展示会を観に行くことや、本を探し読みに行くといった当たり前のことが出来なくなってしまっています。しかし、このような状況の中でも、オンラインで可能なサービスを考え、提供している館がたくさんあります。saveMLAK は変化する今を記録に留める役割もありますが、MLAK の活動の豊かさを知ることができる意味も持っているように感じます。

本号では、COVID-19 への対応活動のお知らせや、小嶋さんからのメッセージを掲載いたしました。#StayHome のいま、このニュースレターをゆっくりとお読みいただき、さらに saveMLAK ウェブサイトを訪れていただけると嬉しいです。

【あこたかゆき：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト  
発行日：2020年5月2日（土）（第62号）  
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル  
さくらWORKS<関内>407  
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内  
saveMLAK プロジェクト  
E-mail：pr@savemlak.jp  
URL：<https://savemlak.jp/>

